

WE  
LOVE

October 2022  
地域医療支援学レター

vol.  
41



CONTENTS

- 活動報告
- セミナー報告  
リレートーク第41回
- 総合診療のすべてが詰まった  
隠岐島前病院  
隠岐広域連合立 隠岐島前病院  
院長 黒谷一志 先生

# 活動報告

令和4年6月27日(月)18:00~19:30

## プライマリ・ケア連合学会学術集会 地域医療体験実習Ⅱ(フレキシブル実習) 報告会(Web開催)

【参加者】第13回プライマリ・ケア連合学会学術集会  
報告2名(個別報告1名) 地域医療体験実習Ⅱ報告7名(個別報告5名)

学会報告は、学会企画運営に携わった学生とポスター発表者の2人であった。学会運営側の学生は初の学会を「激アツな2日間」と表現し「今島根が熱い」との会場の声に感動を覚えたと言った。また自身の活動報告をした学生は、フロアからの質問に「自分自身を深掘できた」と学びを表現したのが印象的であった。

フレキシブル実習は、隠岐病院と弥栄診療所で実習を行った2グループの報告が行われた。何れも受け入れ側の病院で学生達の目的が達せられるようにご準備頂き、学びの深い実習であったことが伺えた。

報告を受ける側も初めて知る「地域の声」や「対象を捉える理論」の紹介に、ナラティブに耳を傾けるNarrative-based-Medicineの重要性について認識を新たにした。

教授からは、らせん状に学びを深めるスパイラルカリキュラムについて“学びの支援の仕掛け作り構想”の説明があった。



令和4年8月8日(月)9:00~14:45

## 松江市立病院・松江生協病院・ 松江赤十字病院見学

【場 所】松江市立病院、松江生協病院、松江赤十字病院  
【参加者】島根大学学生7名、しまね地域医療支援センター職員1名、教員3名

松江市立病院では、まず歓迎の動画から始まった。続いて初期研修医の田邊先生から「医学生のうちに」というテーマで、学習から心の健康迄多くのアドバイスが贈られた。その後レポート等ご案内頂いた。

松江生協病院では、最初に高濱院長に病院の特徴・役割をお話し頂いた。続いて指導医の鈴木先生から病院での実務についてお話し頂き、「低学年から現場に出て、自分の医師像を作っていくといい」とメッセージが贈られた。

松江赤十字病院では、救急総合診療科の田邊先生に、救急搬送受け入れから入院に至るルートを実際にご案内頂き、救命救急センターについて説明頂いた。その後、外来・放射線科部門、レポート等をご案内頂いた。

3病院様には、未来ある学生達の為に受け入れを許可頂き感謝申し上げます。



令和4年8月22日(月)~8月26日(金)

## 令和4年度地域医療体験実習Ⅰ (夏季地域医療実習)

【参加者】16名  
大学:島根大学11名、鳥取大学1名、岡山大学2名、  
東京医科歯科大学1名、筑波大学1名  
学年:1年6名、2年3名、3年4名、4年1名、5年2名

【報告会】令和4年8月26日(金)14:00~16:00(Web開催)

島根県7圏域の保健所に計画頂いた夏季地域医療実習は、新型コロナウイルスの急激な感染拡大のため、2圏域が中止になった。当初26名のエントリーであったが、5圏域での開催となり16名の学生が参加した。実習は保健所とその圏域の医療機関や福祉施設での実習が生まれ、多様な学びができるようご配慮頂いた。

また今回は、他大学からの参加者も多く、大学や学年の垣根を越えての交流が図れ、教員の巡回時にも微笑ましい姿が見受けられた。この繋がりが学生達の今後に新たな“えにし”を紡ぐのではないかと感じられた。

報告会はオンラインであったが、3グループに分かれ「一番印象に残った体験」「地域医療の良いところ・課題」「地域医療の課題の解決策」の3テーマについて学びを共有し、代表者が発表を行った。有意義な実りある実習であったことが伺えた。



令和4年8月7日(日)10:00~12:10

## 第2回しまね総合診療の集い(Web開催) 「総合診療医ブラッシュアップセミナー」

【参加者】111名  
【講 師】第1部:大阪大学大学院医学系研究科 感染制御学 教授 忽那 賢志 先生  
第2部:島根大学医学部附属病院  
感染制御部副部長 ICTリーダー 准教授 羽田野 義郎 先生

第1部は、大阪大学感染制御学の忽那賢志先生に「COVID-19アップデート」のテーマで、COVID-19の基本的な情報、現在主流となっているBA.5の状況、ワクチンおよび治療薬の有効性について、国内・海外の文献やデータをもとにお話し頂いた。COVID-19の収束が不透明な中で、先進的な知見を持たれる先生の講義内容には、講演終了後にも多くの質問が寄せられ、活発な議論が交わされた。

第2部では、「抗菌薬適正使用とその周辺」のテーマで、今年当大学の感染制御部に着任された羽田野義郎先生に、薬剤耐性・抗菌薬適正使用を判断するためのAWaRe分類、感染症治療期間等についてお話し頂いた。全国的に感染症専門医が不足している中で、島根県においては、解決策の一つとして、総合診療専門医が感染症の領域を担ってほしいと話され、貴重な示唆を頂いた。



令和4年8月8日(月)13:00~13:20

## 島根県知事表敬訪問

【場 所】サンラボーむらくも「八雲の間」  
【参加者】島根大学学生7名 鳥取大学学生2名 教員3名

島根大学医学部特別選抜枠入学生(地域枠・緊急医師確保対策枠・県内定着枠・奨学金貸与者)が、鳥取大学医学部医学科「島根県枠」の学生と共に、島根県丸山達也知事を表敬訪問した。

当講座の教授である佐野が表敬訪問の趣旨を含め挨拶し、その後学生一人一人が自己紹介と抱負を述べた。

丸山知事からは、コロナ禍の厳しい現状で働く医療職を労われ、志し高く将来島根の地域医療に貢献する学生達に、大きな期待を寄せていると激励が贈られた。

学生からは、「知事のお話を聞くことで、島根県の医療に貢献しようという決意を再度する事ができた」「知事から頂いた激励の言葉に、気持ちを入れ直す事ができた」「知事の激励は光栄だった。鳥取大学の仲間とまた会えて嬉しかった!」「知事の期待に応えられるよう頑張りたい」と感想が寄せられた。



令和4年9月3日(土)13:30~17:15

## 第3回しまね総合診療の集い 「総合診療専門医プログラム説明会」

【場 所】バルメイト出雲  
【参加者】51名  
【第1部】飯南病院総合診療科 馬淵 寛也 先生  
隠岐病院総合診療科 森江 祥平 先生  
【第2部】島根県立中央病院総合診療科 文田 昌平 先生  
飯南病院総合診療科 馬淵 沙弥佳 先生  
奥出雲病院総合診療科 重栢 典真 先生

この度の「集い」は、趣向を凝らし医学生のピアノ演奏から始まった。開催形式も2部構成で内容を刷新し、過去最多の参加者となった。

第1部は8病院のプログラムを紹介する動画を流した後に、専攻医の馬淵先生・森江先生に「総合診療医って実際どうなの?—専攻医のリアルな毎日—」をテーマにお話し頂いた。診療と普段の生活の様子を交えたお話しには、初期研修医や医学生も総合診療専門医のイメージを掴めたのではないかと感じた。

第2部は3病院のプログラムを紹介し、「総合診療と内科医迷います・私たちがもうでした」というテーマで、文田先生・馬淵先生・重栢先生に其々のご経験からお話し頂いた。その後ファシリテーターを中心として有意義なグループディスカッションが行われ、初期研修医や医学生が普段感じていた疑問も解決したのではないかと考える。



## セミナー報告

SEMINAR REPORT



## 地域医療Webinar



### 総合診療の魅力

【実施日】令和4年6月13日(月)18:00~19:00

【講 師】大田総合医育成センター 講師  
木島 庸貴 先生

【参加者】18名

### 概要

先生は、現在診療されている病院と診療所の2症例を提示され、総合診療医の診断過程を紹介頂いた。いずれも単純な生物学的評価と治療のみでは解決できない問題を抱えた症例で、健康問題に影響を与える社会的な側面や心理的側面を具体的に説明頂き、どのようにアプローチをされたのか教示頂いた。総合診療専門医の定義にある「扱う問題の広さと多様性」、「多面的な側面から診断」等、言葉の理解だけでなく状況の想起や複眼的思考の理解に繋がった。

最後に総合診療の魅力が「診療で取り扱う問題の広さと多様性」「病院総合診療としての楽しさ(総合診療医の視点による評価や役割)」「診療所医師としての継続的な関わり、アクセスの良さから生まれる関係性の構築と患者理解の深まり」「地域という視点での健康問題にアプローチする活動」の4つにまとめられた。



## Career Webinar



### 流されるままに...

【実施日】令和4年7月6日(水)12:15~12:45

【講 師】島根大学医学部環境保健医学講座 環境予防医学  
准教授 田村 太郎 先生

【参加者】11名

### 概要

先生は京都生まれの大阪育ち、時折混じる関西弁のイントネーションと笑いを交えながらお話しされる姿には、親しみと誰からも好かれる、愛されキャラを彷彿とさせるものがあつた。

前任の福井市保健所でのコロナ対応から「感染症と人権の問題、リスクコミュニケーションの問題」等を提起頂いた。また「症例定義」について教示を受けた。

先生はご自身のキャリアについて、仕事上の転機となるワードは臨床・研究で携わってきた「呼吸器」でつながると振り返られ、タイトル通り流れに逆らわず現在に至るとまとめられた。

学生には「やりたい事があればその事に邁進し、なければ自分の興味ある事を掴み育てていくことにより、キャリアアップにつながる」とメッセージが贈られた。

学生からは「今後のキャリアを考える上での一つの選択肢になった」と感想が寄せられた。



### 精神科医「も」いろいろやってます

【実施日】令和4年7月20日(水)18:00~19:00

【講 師】島根県立こころの医療センター精神科 部長  
高尾 碧 先生

【参加者】25名

### 概要

先生は学生時代の心肺蘇生法サークル、医師になってからの東日本大震災の医療救護班参加、DMAT隊員登録、mass gathering medicineの経験等が現在のDPAT事業に繋がっていると話された。活動の実際についてもデータや画像を基に教示頂いた。また「災害への対応は社会の成熟度を示す。災害支援に行く事だけが災害対応ではない。自分の地域での脆弱性を無くす取り組みが重要である。」と話され印象に残った。

また、これからは「精神科(医)に対するネガティブな印象を払拭できるように、ポジティブな側面や面白さを伝えていきたい。」と話された。

先生の語りは弁舌爽やかに淀みがなく、聴き手側の集中力を最後まで切らすことがなかった。先生の基本的なスタンスは「迷った時の返事は2つに1つ『はい』か『YES!』機会を逃さず前のめりにやる」だそうである。今回のテーマと全てが象徴的に繋がった。



### キャリアを積む上での心得

【実施日】令和4年9月2日(金)12:15~13:15

【講 師】島根大学医学部附属病院 高度外傷センター  
講師 比良 英司 先生

【参加者】29名

### 概要

先生は現在、高度外傷センターの講師として「島根県のPreventable trauma deathを0%にしたい」とご活躍である。先生は外科に入室されたのち大学外の病院も経験され、外科・麻酔の技術はもとより心肺蘇生法等のスキルも高めていかれた。その後、救命救急に強く惹かれるものがあり、りんくう総合医療センターで救急救命医としての一歩を踏み出された。

同センターで働いている時に「島根大学高度外傷センター」立ち上げのスタッフの一人として声がかかった。「どっか迷ったら、険しい道を進め」との先輩の教えに島根に帰ってこられた。3名の医師で始め、未開拓の分野であったが「できない理由を探さな!何からだったらできるのか、前向きに考えよう!」と声を掛け合い、現在の高度外傷センターへと発展していく基礎を築かれた。

先生の熱いお話しから刺激を受けた講演であった。



隠岐広域連合立 隠岐島前病院

院長

黒谷 一志 先生

ここ数年なにかと話題の総合診療医、皆さんどんなイメージですか？町のお医者さん、病院の振り分け外来担当、ニッチな領域の専門家…。皆さんの経験で色々なイメージがあると思います。ここ島前病院の医師は、「The 総合診療医」を自負しています。日本海に浮かぶ隠岐諸島の西ノ島にある44床の小さな病院ですが、常勤の7人は全員総合診療医で、0歳の子供も100歳のお年寄りも、内科的な訴えも外科的な訴えも、眼科・耳鼻科・整形外科・精神科的な訴えも、全て診察します。急性期の入院管理から看取りを含めた在宅診療も対応します。上部下部の内視鏡検査や、心臓・腹部・頸部・運動器など全身の超音波検査、fascia hydrorelease やブロック注射、小外科手術なども行います。もちろん地域に出での住民教育や、役場・社会福祉協議会などとの連携もしっかり行っています。離島で

ある事を逆にメリットとして、患者さんを断ることなく様々な訴えや疾患に対応できる能力を培うことの出来る環境にあり、多くの若手医師が勉強に来てくれる環境にもなっています。皆さんも、「The 総合診療医」の姿を見に来てみませんか？



隠岐広域連合立 隠岐島前病院

〒684-0303 島根県隠岐郡西ノ島町大字美田2071-1  
TEL 08514-7-8211 FAX 08514-7-8702

### 令和4年度研究室配属

医学科3年生の研究室配属が、令和4年8月29日(月)から9月30日(金)の期間で行われた。当講座は地域包括ケア実践コースで、医療福祉連携プログラムと医療政策プログラムの内容を組んでいる。

9名の学生が当講座を選択した理由は、「地域医療に興味や関心があった」「地域住民や患者さんへの健康サポートに関心がある」「地域医療体験実習が面白く、より地域医療に関心を持った」等であった。

オリエンテーションでは、教授から「地域の医療やそれを取り巻く福祉の現状等に目を向けながら、人との親和性を持つコネクトする力で地域の方々となつながら、研究に発展してもらいたい」と挨拶があった。

前半は出雲・雲南・大田市で実習を行い、中盤から浜田市の旭町で浜田市参与の阿部先生にお世話になり、「旭町の暮らしと健康の取り組みから学ぶ」のテーマで実習に臨んだ。



### 今後の予定

#### Career Webinar

令和4年10月24日(月)12:15~12:45  
講師:柴垣 広太郎 先生  
島根大学医学部附属病院 光学医療診療部 部長

令和4年11月30日(水)12:15~12:45  
講師:山崎 修 先生  
島根大学医学部皮膚科学講座 教授

令和4年12月21日(水)12:15~12:45  
講師:山下 瞳 先生  
島根大学医学部産婦人科学講座 助教

#### 地域医療Webinar

令和4年10月7日(金)18:00~19:00  
講師:齊藤 稔哲 先生  
気仙沼市立本吉病院 院長

令和4年11月予定  
講師:日下 あかり 先生  
県立広島病院 救命救急センター 部長

令和4年12月16日(金)18:00~19:00  
講師:芹田 晃道 先生  
隠岐病院診療支援室長 診療看護師

#### えんネット交流会

令和4年10月3日(月)17:30~18:30

#### 全学年会

令和4年11月25日(金)18:30~20:00

#### 第4回しまね総合診療の集い

令和4年12月3日(土)13:00~17:30



編集後記  
レターをお読みいただき有難うございます。  
今回のレターのキーカラーは、江戸時代の人気役者に由来する、ややくすんだ明るい橙色「大和柿」です。  
秋の深まりを予感させるとともにまだ夏の温かさが残る陽光を表現しています。  
食べる柿にも同じ名称があるようですが、その名前の由来は色名との関連はないそうです。

島根大学医学部  
地域医療支援学講座  
ホームページはこちらから →

